

2022年3月10日
国立情報学研究所

学術情報流通推進委員会について

1. 概要

SPARC Japan は、2003～2018年度は「国際学術情報流通基盤整備事業」として、2019～2021年度は「学術情報流通推進委員会」として活動し、国内学会誌の電子ジャーナル化、オープンアクセス・オープンサイエンスのアドボカシー活動、国際イニシアティブ（arXiv.org, CLCOKSS, SCOAP³）との連携等に一定の役割を果たしてきた。国立情報学研究所内で各事業に係る委員会の見直しを行った結果、「学術情報流通推進委員会」としての活動は第1期（2019～2021年度）をもって終了する。

2. 各ミッションの今後

- (ア) 「国内ステークホルダーとの協調」として作成した最終ステートメントについては、2021年度第2回学術情報流通推進委員会の審議事項【詳細は、資料4を参照のこと】である。
- (イ) 「国際協調に係る戦略の検討と提言」は日本コンソーシアム各代表と学術コンテンツ課の協議のもとで日本コンソーシアムの事務作業を中心に進めていく。
- (ウ) 「アドボカシー活動の実施（SPARC Japan セミナー）」は学術コンテンツ課の下に企画ワーキンググループを設置し、実施する。
- (エ) 「学術情報流通の動向に係る調査の提言」として行っている論文公表実態調査については、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と調整の上、実施する。

以上